

実績報告書

届出者	住所	大阪市中央区久太郎町2丁目4番27号 堺筋本町TFビル8階	氏名	ウツリサイクルシステムズ株式会社 代表取締役 内海 正顕
特定事業者の主たる業種		32その他の製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主にペットボトルリサイクル事業を展開し、府内に本社を含め3工場を有する		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間
平成 26 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	9,033 t-CO ₂	8,387 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	9,823 t-CO ₂	8,926 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース) 0 %	0 %	0 %	0 %
		削減率(原単位ベース) 4.7 %	20.8 %	18.7 %	17.3 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	20.9 %	19 %	19 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(投入量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	
原単位とした時の算出基準: 28年度 0.1036 (原単位)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

泉南工場のシート3号ラインは28年12月に完全停止 同シート1号ラインも故障で長期停台を余儀なくされた(29年2月より稼働) 今後は1号2号ラインの本格稼働でエネルギーの効率化を進める	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<p>月1回省エネ部会の報告機会に社内浸透の為の説明を実施している 社内の理解を一層深めていく</p>

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	泉南工場	コード (1111) 省エネ部会の体制化	省エネ委員会の体制づくりとして工場安全委員会に”省エネ専門部会”を組織化の更なる展開	26 年度～ 31 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	全社	コード (1113) 空調設備運転のルール化	泉南工場をモデルとしてルール化展開 夏の冷房 26℃管理 冬の暖房 20℃管理	29 年度～ 31 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	泉南工場	コード (1299) コンプレッサー設備の省エネ制御運転	泉南工場に設置してある4機の設備に負荷に応じて稼働台数を制御するシステムを導入して省エネ運転	26 年度～ 31 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	泉南工場	コード (1113) 成型工程の休日air元バルブ止め管理	泉南工場成形工程において、休日(土日)中はair元バルブ全閉の管理をすることで、エア漏れ損失を無くすることで、コンプレッサー稼働台数を抑え	29 年度～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	泉南工場	コード (1113) 不必要な照明は消す	泉南工場内における照明の点灯制限 ①不要な照明は消すルール化 ②必要な照明のLED化	29 年度～ 32 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	泉南工場	コード (2121) 省エネタイプのフォークリフト推進	エンジン車両からバッテリー車両へ乗換え	29 年度～ 32 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	りんくう工場	コード (2121) 省エネタイプのフォークリフト推進	エンジン車両からバッテリー車両へ乗換え	29 年度～ 32 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

<p>特になし</p>
